



楽しむためには知識が必要

明けましておめでとうございます。年末年始のカレンダーのおかげで、今年はゆったりとしたお正月を過ごしているご家庭も多いことでしょう。ところが、千葉市の生徒たちは例年より短い冬休みのため、今回の冬期講習はちょっと過密なスケジュールになってしまいました。そんな中、授業時間以外にもしっかり自習に来ている中3生の努力はきっと実を結ぶにちがいありません。

さて、その中3の冬期講習テキストの国語の問題文に齋藤孝さんの文章が載っています。その単元の日は問題を解くことよりも、むしろこの文章を読んでもらいたいという思いで授業を進めました。

「退屈力」というタイトルの文ですが、「知識があるからこそ感動が生まれるものが圧倒的に多い。本当の価値、すごさ、ありがたみは、勉強し深くその世界を知るほどに増してくる。」と言っています。例えばアメフトのルールを全く知らない人が試合を見ても、アメリカ人がなんであんなに興奮しているのかわからない。逆に野球を見て熱狂している日本人のことを、野球を知らない国々の人は不思議に思うだろうという話にはうなずいてしまいます。自分一人の考えだけにしぼられない知識を身につけることによって養われる心の豊かさが教養です。教養は、幅広いものの見方を与えてくれるのであって、たとえピンチがあったとしても、多くの選択肢の中から、切り抜ける方法を見出すことができるはずです。

今日本で最も活躍しているクリエイティブディレクターの一人である水野学さんが「センスは知識からはじまる」という本の中で同様のことを言っています。センスの良し悪しは主観ではないのです。知識に基づいて予測することがセンスであり、みんながある程度知っているものの延長線上にありながら画期的に異なっているもの「ありそうでなかったもの」を考え出す力だということです。そして効率よく知識を増やすコツとして「共通項や一定のルールがないかを考えてみる」ことを挙げています。

新しい年、自分の世界を新しい知識で広げて楽しんでみては！